

# 医療史第9回 医療の社会化(1)

「日本医療史」(新村拓)も  
参照ください

# 社会背景

- 明治の富国強兵政策
  - 地租改正：農民の階層分化、農民の離農や都市流入
  - 都市部でのスラムの発生、貧民層の形成
  - 貧しい人たちは医療を受けられない

# 救療事業

- 東京府：1877年（～1881年）から施療事業
- 高木兼寛ら：1883年に有志共立東京病院（慈恵医大の前身）を開設
- 1887年：東大に「学用患者」としての無料の医療（研究目的、死後の解剖の条件）
- 1991年：恩賜財団済生会の発足（貧民救済は慈善ではなく、国家に有用な人的資源の担保）

# 第一次世界大戦の戦勝と 医療の社会化

- 戦勝の好景気：独占資本の形成と貧困の発生（勝ち組と負け組）
- 社会法人実費診療所：1911年、鈴木梅太郎が設立（三井財閥）
- 1927年：健康保険法の成立（このあと、実費診療所は減少傾向）
- 東京帝大セツルメント医療部：社会医療研究会（結核、性病、乳児死亡、栄養、住宅の検討）

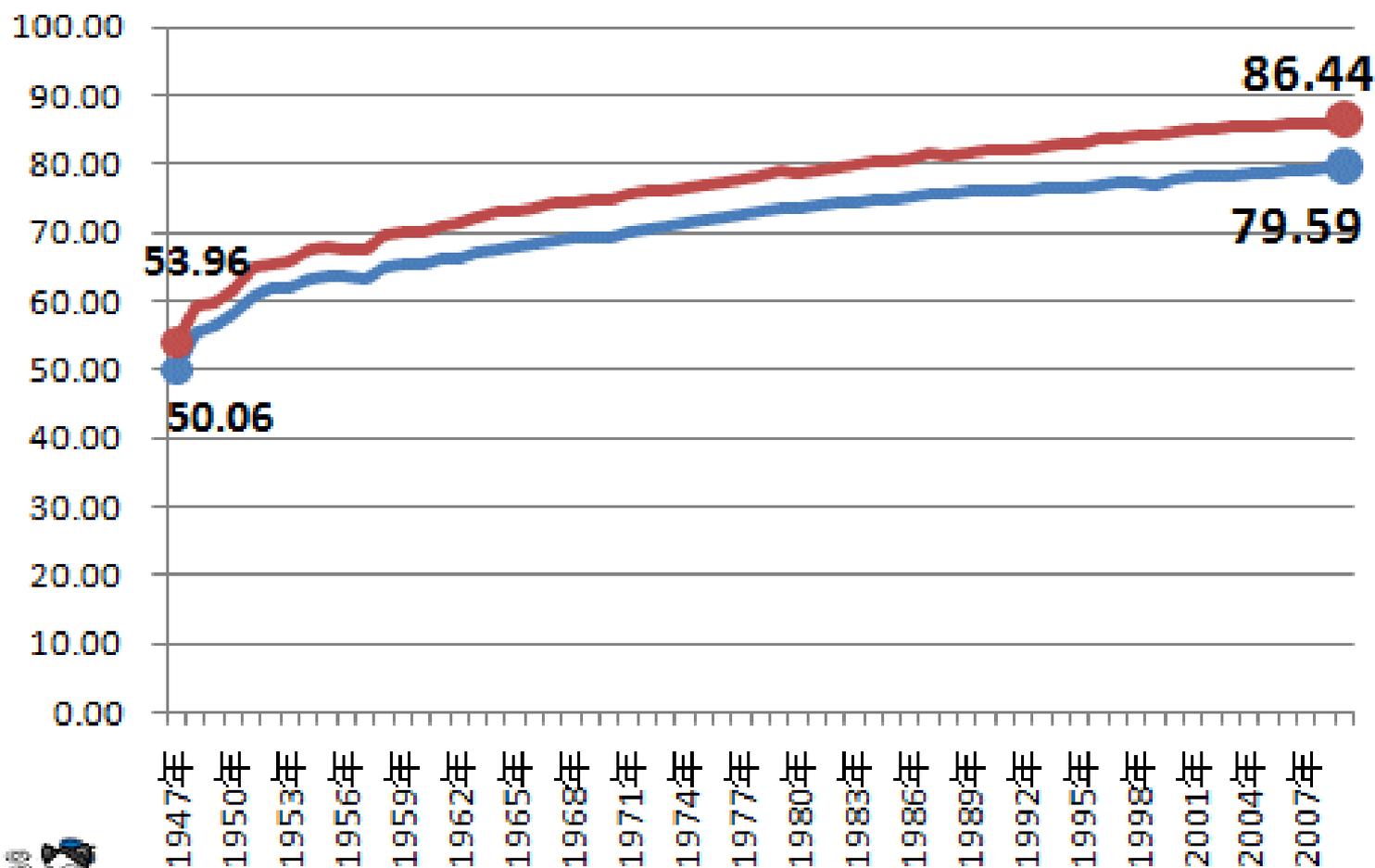
# 結核のまん延と乳児死亡率の上昇

- 結核：資本主義発達期の労働者、農民
- 石原修：
  - 1910年から工場調査を行い、繊維産業における結核のまん延を記載、のちに工場法の制定に
  - 女工と結核との関連性を研究した

# 女工哀史

- 女工の7割が寄宿舍
- 10代女工が1日14～16時間勤務
- 連続徹夜が常態化
- 劣悪労働環境、長時間労働、寝具の共同使用、不衛生な寝室と結核との関連を示唆
- 1919年結核予防法の制定（全国各地に結核療養所を設置）

# 平均寿命推移(1947~2009年、日本)



— 男 — 女

# 平均寿命の変遷

平均寿命	男	女
明治24年－31年	42.8年	44.3年
明治32年－36年	43.97	44.85
明治42年－大正 2年	44.25	44.73
大正10年－大正14年	<u>42.06</u>	<u>43.2</u>
大正15年－昭和 5年	44.82	46.54
昭和10年－11年	46.92	49.63

# 大正期における平均寿命の減少

- 乳幼児の死亡の増加
- 医療衛生環境に問題ある地域、貧困層で乳幼児死亡率が高率であった
- 1916年に内務省は「保健衛生調査会」を設置。
- この調査会に8部会
  - ①乳幼児・学童と青年の保健衛生、②結核、③花柳病、④らい、⑤精神病、⑥衣食住、⑦都市と農村の衛生状態、⑧統計

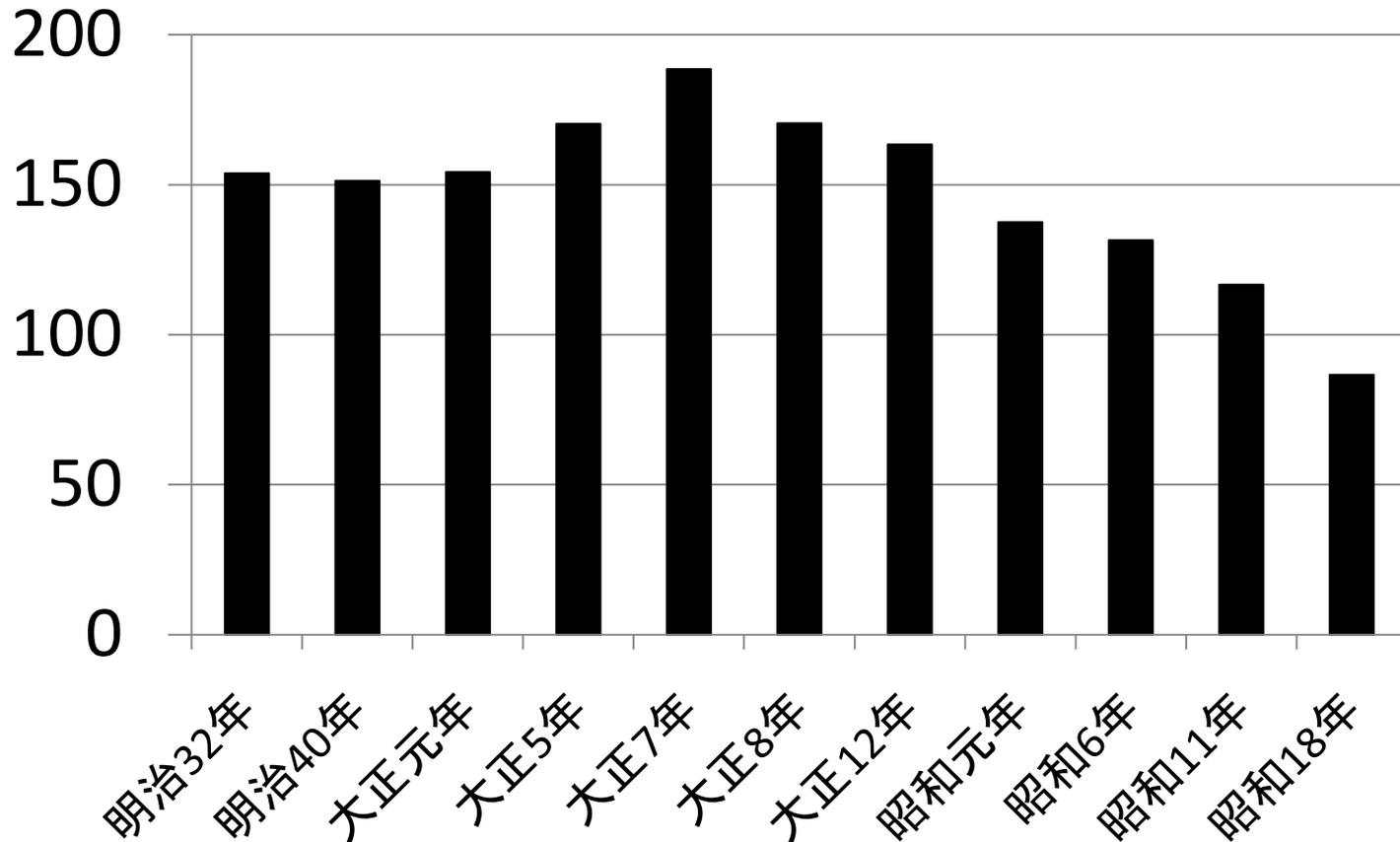
# 母子保健の対策

- 都市部貧困層の産婦を収容する病院設置
- 巡回産婆や巡回看護婦の配置
- 育児相談所や育児牛乳供給所の設置
  
- 内務省衛生局は、主要都市に小児保健所設置を勧奨：最初の小児保健所が、民間の事業として始まった（和光堂の初代社長、大賀彊二）。

# 乳幼児死亡率の推移

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suii01/soran2-2.html>

乳児死亡率(/千)



# 1920年代の保健指導

- 都市部を中心に保健指導機関
- 農村部：独自に保健婦をやとって無医村に派遣する産業組合や地方自治体
- 一方、1930年代には戦時体制に入らる中で、戦時を支えるための健康増進がいつそう求められた。